

# 会報 習志野隊友

## 特別寄稿

この度、衆議院議員・小林鷹之氏(元経済安全保障担当大臣・防衛大臣政務官)から、『小林鷹之からの手紙(第64号)』に託して、「危機管理」に関する一文を頂戴したので、当習志野支部会報への特別寄稿の形で転載をお許しいただいた。



岸田内閣が、今まで語られることのない憲法改正の推進を、今では正面切って標ぼうしているが、その憲法改正の最大のポイントが、日本有事を含めた「危機管理」であることは、言うまでもない。憲法改正の促進を熱望する会員諸氏にとって、この寄稿文が論点整理の参考になれば幸いである。

なお、小林鷹之議員選出の千葉二区(八千代市、千葉市花見川区)から習志野市は選挙区が離れたが、小林氏とは、長年の縁で、隊友会習志野支部とも変わらぬ友誼を続けさせていただいていることを、申し添えておく。

## 危機管理

衆議院議員 小林鷹之  
(千葉二区選出・隊友会特別会員)

元日に、能登半島地震が発生し、翌日には海上保安庁の航空機と日航機の衝突事故が起きました。犠牲になられた方々に哀悼の誠を捧げますとともに

に、被災された皆様にお見舞いを申し上げます。また、現場で対応に当たられている全ての関係者に、心から感謝申し上げます。

自民党では、直ちに能登半島地震対策本部を立ち上げ、救助活動、被災者の支援、生業の再建等について、政府と連携して対応しています。航空機事故については、私が事務局長を務める航空政策特別委員会でも再発防止策を纏めていく予定です。

近年の大規模自然災害や新型コロナウイルス感染症、そして今回の能登半島地震や重大事故を目的に、政治の要諦であると再認識しています。

加えて、今年も国際的にも政治が動く年。とりわけ、米国の大統領選挙や台湾を巡る情勢など、国際社会における不確実性が高まっています。

国内のみならず、国際社会の動向をも想定し、いつ何時いかなる事態が発生しても対応できるように、平時からできる限りの備えをしておく必要があります。私が経済安全保障担当大臣の時に設置した各省庁横断の「経済安全保障重点事項検討会議」では、経済安全保障上のリスクシナリオの作成と対策を進めています。平時からこうしたリスクを想定し、備えておくことが、社会や経済を強靱なものとし、国民を守ることに繋がると考えます。

このような「危機管理」に関して、喫緊の課題と考えているのが次の二点です。

一つは、憲法改正、特に緊急事態条項の創設です。今後、想定を超える自然災害やパンデミック、わが国をも巻き込む近隣国での騒乱などの緊急事態に備えておくことが肝要です。

仮に今の法制度では対応困難な事態が生じてしまった場合、急いで法整備できれば良いですが、国会を開くことすらできない場合はどうすれば良いのでしょうか？

リスク(有事)を事前に想定し、具体的な法整備等を施した上でも、想定を超える事態が生じる可能性は排除できません。だからこそ、そのような緊急時に、事後的な国会の関与を条件とした上で、例えば暫定的に、政府に一定の権限を与えるといった「緊急事態条項」を憲法に規定すべきと考えます。

もう一つは、サイバーセキュリティの強化です。国内外で電力や通信などの基幹インフラを狙ったサイバー攻撃が多発しています。昨夏は名古屋港が標的となり、物流が一時ストップしました。

サイバーセキュリティ強化のためには、国家安全保障戦略に記載された「能動的サイバー防衛」の法的・人的な整備が喫緊の課題です。これは、攻撃者(国)の情報収集や安全保障上の懸念

を生じさせる重大なサイバー攻撃について未然に防止あるいは無力化するための能力を整える、ということですが、サイバー攻撃への対処は時間との勝負であるからこそ、平時の備えが重要です。電力、情報通信、鉄道などの基幹インフラが攻撃されてからでは遅いのです。

今回は、「危機管理」をテーマとしましたが、今後も国民の命と暮らしを守るために全力で活動しますので、引き続きご指導をお願いします。

友隊野習志 最後になりましたが、政治への信頼が失われた現状に強い危機感を抱いています。安心して国家運営を任せていただける党へと進化すべく、私たちの世代が中心となり力を尽くしてまいります。

(令和六年一月吉日 小林鷹之記)

### 小林鷹之氏略歴

- ・ 74年千葉県生れ(本籍八千代市)
- ・ 東大法学部卒業(ポト部主将)
- ・ ハーバード大ケネディ大学院修了
- ・ 99年旧大蔵省入省
- ・ 財務課長補佐
- ・ 在米日本大使館一等書記官
- ・ 10年財務省退職、政治の道へ
- ・ 衆議院議員当選4回
- ・ 防衛大臣政務官
- ・ 経済安全保障担当大臣
- ・ 内閣府特命大臣(科学技術・宇宙)

## 習志野自衛隊・第一空挺団 令和6年降下訓練初め

新年恒例の我らが習志野自衛隊・第一空挺団の「降下訓練初め」の行事が1月7日、木原稔防衛大臣視察の下、習志野演習場において実施され、今年も一般公開の呼びかけに応じて約9千人の市民が詰めかけた。

折しも能登半島地震救援のため、多くの自衛隊各部隊が災害派遣中の情勢に鑑み、訓練展示に引き続き恒例の野宴は中止されたが、訓練展示では、今年も、侵攻した敵国から離島を奪還す



るとの訓練想定の下、約1時間に及ぶ迫力ある空挺強襲攻撃のシナリオに基づく公開訓練が整齐と展示披露された。なお、この「降下訓練初め」は、わが陸自空挺団主導のもと、他国軍空挺部隊の交流の場ともなっており、昨年のアメリカ、イギリス、オーストラリア軍の参加に引き続き、今年も米英軍に加えて、カナダ、フランス、ドイツ、オランダ、インドネシア軍も参加し、共に落下傘降下等に共同参加した。

また、「降下訓練初め」の前々日、1月5日には、今回参加した各国の空挺部隊指揮官が集まって「国際空挺指揮官会議」が開催され、陸自第一空挺団と今回の「降下訓練初め」に参加した7カ国、更にオプザバーとしてカンボジアなどの各国の空挺部隊指揮官が参加した。この会議では、「インド太平洋地域の平和と安定のために空挺部隊が果たすべき役割」というテーマで、各国軍の現役の第一線指揮官同士の闊達な意見交換が行われ、互いの信頼の絆を深めた。日本を含め9カ国にも及ぶ空挺部隊の指揮官が一堂に会する機会は、かつてなかったとのこと。

なお、降下訓練終了後、木原防衛大臣が参加全隊員に訓示。訓示に先立ち、能登半島地震で亡くなった人たちに黙祷を捧げ、「災害対応は待たなした。防衛省・自衛隊は引き続き、被災者のため全力で活動する。一方、こうした中でも、国の護りは決して疎かにできない。国民の生命と平和な暮らしを断

固として守り抜かねばならない」と、民生支援と国土防衛の両面に備える必要性を強調し、最後に、「皆さんは国の宝だ。強い使命感を持ち、日本一の精強部隊として任務に励んで欲しい」と締めくくった。

なお、隊友会習志野支部は、例年にならい、ささやかながら、激励の意をこめて寸志を贈呈した。

### お知らせなど

#### ▽ 会員のご逝去

- ・ 斎藤 晃 様 秋津2丁目 (令和5年5月ご逝去)
- ・ 荒武 良弘 様 秋津1丁目 (令和5年10月ご逝去)

ご逝去を衷心より悼み、生前のご厚誼に深謝し、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

#### ▽ 退会会員のご連絡

諸般の事情により、左記の方が隊友会を退会されました。これまでのご厚誼に深謝し、今後のご健勝ご多幸を祈念申し上げます。

- ・ 遠藤 英昭 様 秋津3丁目 (令和5年11月ご退会)
- ・ 藤川 壽之 様 津田沼7丁目 (令和6年1月ご退会)